



## 年頭にあたってー“踊り場”を認識し、地域づくり活動の継続を！

村田 武一郎(NAED 理事長)

皆さま、今年もよろしくお願い致します。

昨年は、若林稔氏が「あしたのなら」表彰を受賞されました。一昨年には、北森義卿氏の深野〇〇会が受賞されています。私たちの大先達の長年にわたる活動が大きな花を咲かせ、実を結んでいます。そして、各地域での地域づくり活動が学ぶべきモデルになっています。とてもうれしいことです。

地域づくりは、成果が出るまでに実に多くの年月を要します。なおかつ、その成果は、行きついた先ではなく、常に途中段階での成果であります。若林氏も、北森氏も、これで十分とはお考えになっていないことと思われまます。ペースはできたけれども、成し遂げたわけではない、行きつく先はまだまだ遠いとお考えと推察いたします。

さらに、地域づくりは、対象とする地域の範囲が狭ければ狭いほど、様々な軋轢や困難を伴います。それにもかかわらず、逃げ出しようがない地域で、地域づくりのリーダーを務め続けられている両氏からは、地域の将来に関する弱気な発言を聞いたことがありません。両氏のそこが“すごい”ところです。仲間と地域のポテンシャルを信じ、地域が将来に向けて確実に展開していくことを信じていらっしゃるからでしょう。

さて、各地域の地域づくり活動のお手伝いをしてきた中で、いつも気になっていることがあります。当初は熱気に溢れていた活動が、数年のうちに、参加者が減り、停滞し、活動にケチをつける人まで出てくる状況が生じています。これは、“踊り場”に入ったということですが、そこで意気消沈してしまえば、活動は消滅します。活動している人には、それまでの活動の意義・成果、今後の展開可能性が見えないことが多いようです。そこを抜け出すには、どうすれば良いのでしょうか。

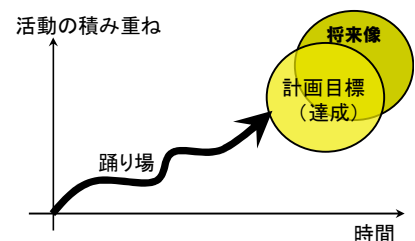
地域づくり活動にこのような状況が生じた時には、私は、当初にみんなでイメージした地域の将来像の再確認を促します。同時に、どのような活動であっても“踊り場”が必ずあることを理解してもらいます。長い階段は、途中に“踊り場”がなければ登り続けられないのです。そして、これまでの取り組みを意味づけ(前向きに評価)し、次のステージへの基盤ができたことをともに喜び合います。

地域づくり活動のリーダーは、“踊り場”に至った時に、メンバーが意気消沈しないように、“踊り場”は次の発展のために必要不可欠な段階であり、意義を再確認する機会、方法を考え直す機会、新しい計画目標をつくる機会であることを伝え、みんなで喜び合わなければなりません。メンバーに再協力を求める、あるいは、新しいメンバーを探す必要もあります。

先の両氏が、いくつもの“踊り場”を経験してこられたことは想像に難くありません。いくつもの“踊り場”を抜け、明日へとつながる今日を築くことを主導してこられたことに、敬意を表します。

私自身は、“踊り場”で悶々としつつも、将来を見据え、“踊り場”を超えた先に見えてくるであろうものを楽しみにしたいと思っています。皆さまも、仲間との地域づくり活動で、“踊り場”を認識のうえ、適切にご対応ください。そして、地域づくりに携わっていることをお喜びください。その活動が“踊り場”にあるのであれば、“踊り場”を前向きに捉え、お楽しみください。

年頭にあたり、皆さまのご発展を祈ります。また、各地域の地域づくり活動がいくつもの“踊り場”を超えて継続することを祈ります。



## 2018年の始まりにあたって—回顧

若林 稔(地域P&C 第5期)

### 1. 地域づくり支援機構との出会い

地域づくり支援機構とは何ぞや！ NAEDを引っ張る村田武一郎とはどんな男か!! この男を信頼して引っついてる輩とは！

のっけから暴言の羅列であるが、実は、私が会長を務めている今井町町並み保存会が団体会員として入会したのは、地域づくり支援機構の創設当初からである。ただ会費を払い、年1回の総会に顔を出すだけで、その活動に特別な関心すら持っていなかった。

高学歴者が老後に地域づくりを助っ人しようなんて、現場はそんな生易しいもんじゃないぞ！ 現場に骨を埋めるつもりは奴どれだけ居るんや！ この気持ちは今でも私の芯に流れている！ だから素直に手伝ってくれる人はありがたいが口出しする奴はかまってくれな！ とやってきた。

そんな男が地域づくり支援機構の門をくぐったのは、やはり、まちづくりに悩みが出てきたからだった。遅々として進まない人材育成が最大の壁だった。助成金をあてにして、怠け者のまちづくりが段々と侵食してくるスピードが上がってきたからだった。

ちょっと待てよ！ 俺、地域づくり支援機構という組織にいるじゃないか。村田武一郎氏の懐に1回入ってみたらかな！ 何かが見えるかもしれんな！ しかし、俺には専門知識は何にもないし、田舎もん丸出しの男が奈良の都に出ての修行が1年間も持つんかいな！ こんな自問自答をして5期のP&C養成塾に申し込んだ。

初日、自己紹介で仲間になるみんなの煌めく肩書に、そして活動報告、夢を語るみんなに怖気づいて、田舎の今井町での活動が恥ずかしくなって、みんなの動向を観察していた。もちろん、村田理論は必死に聞いたが、声が小さいから聞き取りにくい。この男、良いこと言ってるけれど、現場向きやないわ！ 現場には耳の遠い年寄りもたくさんいるのに！

ホントに聞き取りに苦労した1年だった。そのために30万円もの大金をはたいて補聴器も買った。そして、村田理論の講義が完全につながって聞き取れるまで、卒業してからも養成塾に足しげく通った。

もっと怖気づいたのはパソコンの未熟さだった。発表はパワーポイントでとか、パソコンを手帳代わりに使っている仲間を見て怖気づいたこともあった。だから、1年の前半は控え目に、人の話を聞くことに集中した。

そんな俺を、村田武一郎氏はうまく使い始めた。何かあると挨拶させられた！ そしてじっと聞き入ってくれていた！ そして、卒業の時には曲がりなりにもパワーポイントも作成できるようになって発表の場も与えてくれた。

あれから6年、11期生を送るようになったが、最近の地域づくり支援機構、あの当時の熱い議論はどこへ行ったのだろうかと思う反面、多くの先輩や仲間たちは、地道に地域の影武者に徹して活性のお手伝いやリーダーとして活躍しておられることもたくさん見えてきた。

俺はひょっとして、と自分を振り返ってみた時「俺って先走りする大バカ者」で、ここで学習している仲間と思っていた人たちは大バカ者の俺みたいなものを助け、地元の宝物を探す勉強をしているんだと気がついた。

いろんなことを学んだP&C養成塾で最も大きかったことは、

- 1) 勘ピュータ人間がパソコンを必要とする日常に変えられたこと
- 2) 「先走りするバカ者」とそれを「支援するバカ者」の二役を理解できたこと
- 3) 今も語り合える仲間がたくさんできたこと
- 4) 摩訶不思議な存在だった村田武一郎氏の、地域というものに対する思いと優しい人物像が少し見えてきたこと、そして、村田武一郎氏を素直に受け入れられるようになったこと
- 5) 最後は、大借金をして古民家を購入し、残り少ない生涯では成し得ないだろうあくなき挑戦の場を持てたこと

### 2. 地域P&C塾5期生で得たもの

地域P&C塾5期生で得たもの—それは、仲間、共同体

養成塾半ばを過ぎてくると、人の顔が見えてきた、というよりも心の内が見えてきた。1) 塾を卒業することだけが目的の人、2) この組織を利用して名を成そうとする人、3) 理想を掲げるが、絵を描くが、動く気配のない人。現場

を見てきて、ここに求めに来たものは何だったのだろうか。ぼつぼつと現場主義の本音が出始め、はたから見たら暴走と思えるような行動が始まった。徹底して現場知見に主眼を置いた主張が始まったのだ。地元は高度成長期の影響で、あらゆるところで古くからのものが改革の名の下で崩壊が進んでいる。それはモノだけでなく、人の心がそちらに向かっていくことへの危機感の方が大きく感じられたからだ。

力説した、力説した！ 塾生の中にも賛同してくれる人が出てきた。思いを共有し始めることが始まった。そして熱い議論を、夜を徹してやるが多くなった。吉田塾頭がこれをうまくコントロールしていく。この空気こそが現場で使えるものだ。酒の飲めない俺がしてこなかったのはこれだと、このとき気がついた。このときに心を交わした数人は、その後も顔を合わさなくてもFBなどで心が見えてうれしい。

1年後、6期では徹底して養成塾に関わった。町や地域が持っている宝と膿をとことん曝け出して教材に提供した。一人前の社会人たちに現場で徹底的にまちづくりの体験をさせた。よく考えてみたら、村田武一郎氏の手の平(理論)。理論を実践している図だな！

後日談である。5期生、6期生でシゴキまくった人たちは、今それぞれの地域で私を超える活躍をされており、最も充実した人材が生まれた時で、俺よりみな優れているのは、行政、地元、学者をうまく融合させて実行している人が多いことだ。P&C 養成塾が成したかったところは、ここだったのか。

俺はといえば、これまで真っ向から行政に、「助成金をばらまく前に、考えて、汗を流してるところに支援したれ」、「よその真似せずに、ありふれていると思っている地元の宝物に気がつかんのか！」と、意見を具申し続け、煙たがられて来た。敵に回していたはずの行政から2017年度に、「Nara 観光コンシェルジュ(エキスパートガイド)」、「あしたのなら表彰」の二つを県からまとめてもらうことになった。

びっくりしたな！ 憎まれることはあっても、生涯こんなことなんてあり得ないと思っていたことが起こったのだ。まだ道半ばだけれど、20年かかわってきたまちづくり、ようやく行政にもわかる人が出てきたんだなと、表彰状やメダルよりも、俺のやってきたことが20年もかかったけれど、行政もわかってくれたことがもっと嬉しかった。

そして、はっと気づかされた。P&C 養成塾が成したかったところは、ここだったのか、そして、俺がやりたかったことも、ここだったのだ！ みんながわかるようになるのに20年もかかるんだ(先走る大バカ者)！ それを支援するのにも20年かかるんだ(支援する大バカ者)！

また、こんな執筆の機会をもらって続きを書かせてもらいたいものだ。